

君達は魔法使いである。どれだけ強力な魔法使いなのか、逆にどれだけ弱い魔法使いなのか、それは君自身にしかわからないことだがとにかく君達は魔法使いである。

魔法使いである君達は、それでも、君達なりの退屈で平和な日常を過ごしているだろう。しかし、その手紙は突然やってきた。

「魔女裁判の結果 眷族魔法使い 八木 当 の極刑が決定した。周辺の魔法使いは直ちに搜索し、当該魔法使いを討伐せよ。」

どこからともなく、日常が崩れる音がした。

魔法使い達はその街で最も大きい広場に集合していた。先の手紙に同封されていたもう一枚の手紙に集合すべき場所としてこの広場が指定されていたのである。

その広場には他にも数人の魔法使いと思われる人達が集まっていた。(ここでPC同士が対面ロールプレイをしても良い)

魔法使い達が話をしていると突然鳩が手紙を咥えてその場にやってきた。

魔法使い達は手紙を受け取りそれを読んだ。

「八木 当 未だ行方不明 搜索し討伐せよ」

魔法使い達は無茶な要求をする魔法ギルドに呆れつつも、探索を開始することを決めた。  
探索パート 行先の候補を掲示し魔法使い達に選択させる。三つの場所を探索し終えたら探索パート終了

候補

- ・カフェ
- ・海沿いの広場
- ・本屋
- ・ショッピングモール

カフェ

魔法使い達はカフェへと赴いた。そのカフェは所謂純喫茶と呼ばれる場所で、マスターと客が一人いただけだった。

マスター

「いらっしゃいませ。ご注文は何にいたしますか？」

雪のように真っ白な白髪をオールバックでまとめているマスター。しかし、髪の色に反してその顔はまだ30代前半、もしくは20代と言っても通じる程若々しいものだった。

ここでマスターとしばらく会話のロールプレイをしても良い

想定される質問等

Q.お名前は

A.「柳 朧夜 (やなぎ ろうや)と申します。」

Q.どのくらいこのカフェをやっているのか

A.「かれこれ20年近くここでカフェをやらせて貰っています。常連さん達のおかげで潰れずに来ましたよ。」

Q.八木 当 という名前に心当たりがあるか

A.「知っていたとしても、お客様の個人情報をお伝えするはずがないでしょう。」

PCの思考力が20以上ある場合 この発言から八木当がこの店によく訪れているという情報を得られる。

マスターを魅了もしくは命令魔法をかけることに成功した場合マスターから八木当の外見情報を聞き出せます。マスターの総魔力量は83。男性の場合魅了成功率-30

八木当の外見情報は下部に記載あり

客(八木当)

マスターと先に話した場合その会話の中で八木当という名前が出ていたら、すでにこのカフェを立ち去っている。

その客は細身の男性だった。文庫本を手に、読書にいそしんでいる。厚手のコートを着た優しそうな印象の男だ。髪はやや長く、ウルフカットと言われるような髪型で、耳元にはキラリと緑に輝くイヤリングが付いていた。しかし、何より魔法使い達の目を引くのは、彼の瞳がとても綺麗な紫色だったことだ。

八木当とすでに一度会っている場合

「やあ、さっきぶりだね どう?少しお話す?」

八木当と未遭遇の場合

「.....?初めましてだよね?なにか私に用ですか?」

ここからは八木当と会話ロールプレイ

想定される質問

Q.お名前は?

A.「私の名前? 八木当と申します。」

一度会っている場合「ああ、まだ言ってなかったね。僕は八木 当。」

名前が判明した段階で探索パートを終了し戦闘 八木当 へと移行しても良い。

Q.八木当という人物を知っているか?

A.「八木当? それ、僕のことだけど、なにか用事?」

Q.彼女いますか!!!!

A.「アハハ、急だね。今はいないししばらく作る気も無いかな。前の子でちょっと痛い目見ちゃってね。」

八木当の名前を聞かずに会話を終了した場合、もしくは聞いた上で戦闘へ移行しなかった場合。

PCの中で赤い色の目を持った者がいた場合 八木当はその人物に強い関心を持つ。

「ねえ君、その急にこんなこと聞くのもあれなんだけど……君は今恋人、ないし好きな人はいるかい？」

いると答えた場合

「そうか。その人のこと……大切にするんだよ。決して置いて行ったりしちゃいけない……。ああ、ごめんね!!変だな、君を見てると、つい口から本音が出てしまう。」

いないと答えた場合

「そっか、もし君にいつかそういう人ができた場合、その人のこと大事にするんだよ。なんて、ちょっと説教臭くなっちゃったね。ごめんよ。」

八木当の過去について詳しくPCが聞いた場合、その場に赤い瞳のキャラがいた場合のみ八木当が情報を出す。

「昔、付き合ってる人がいたんだ、けどその子は病気で亡くなってしまってね。僕は今でもその子のことを引きずってるんだ……。情けない男だろ。笑ってくれ。」

海沿いの広場

これといってめぼしい物は何も無いようだ。

:ここで全PCが幸運を振る

成功した場合

魔法使い達が海沿いを歩いているとドンッと一人の男と肩がぶつかってしまった。

その男はとても長身だった。厚手のコートを着た優しい印象の男だ。髪はやや長く、ウルフカットと言われるような髪型で、耳元にはキラリと緑に輝くイヤリングが付いていた。しかし、何より魔法使い達の目を引くのは、彼の瞳がとても綺麗な紫色だったことだ。

「ああ、ごめんよ。怪我は無いかい？」

「そう、良かった本当にごめんよ」

男は立ち去って行った。

本屋

魔法使い達は本屋に立ち寄った。特にめぼしい物は無さそうだったが、どうせならと少し本を見て回ることにした。

:ここで全PCが幸運を振る

成功した場合

本を見て回っていると一冊興味深いタイトルの本があった。あなたその本に手を伸ばすと偶然、同じタイミングで同じ本を取ろうとした人と手が触れてしまう。

「ああ、ごめんよ。僕のことは気にせず本を取ってくれ。……君もこういう本好きなのかい？」

その男はとても長身だった。厚手のコートを着た優しい印象の男だ。髪はやや長く、ウルフカットと言われるような髪型で、耳元にはキラリと緑に輝くイヤリングが付いていた。しかし、何より魔法使い達の目を引くのは、彼の瞳がとても綺麗な紫色だったことだ。

ここで少しロールプレイ仲良くなることが出来ればこのままカフェに移動して会話する流れになる。

#### ショッピングモール

とても広い建物だ。沢山の人達が思い思いの過ごし方をしている。聞き込み等が出来そうだ。

※残念ながらこの聞き込みで情報を得られることは無い

三つ以上探索した場合探索パートが終了する。

魔法使い達がしばらく街を探索していると、またしてもさっきと同じ鳩が手紙を咥えてやってきた。今度の手紙には、八木当の外見的特徴が記されていた。

長身 厚手のコート 髪はやや長くウルフカット 耳元にキラリ緑のイヤリング 紫色の瞳

#### 八木当に遭遇していた場合

魔法使い達は先程あったあの男こそが八木当だったのだと知り、彼の探索を始める。そして、あっけなく彼は見つかった。

#### 八木当に遭遇していない場合

魔法使い達は新たに得た情報を元に探索を再開した。すると、その男はあっさりと見つかった。

#### 戦闘 八木当

#### ステータス

男 21

筋力 28

正確性 19

俊敏性 25

知識 21

思考力 23

容姿 18

幸運 6

感情値 70

総魔力量 85

HP 78

基礎魔法 熱()身体(93) 操作()

固有魔法適性 (光魔法)(変身魔法)

固有魔法 ——(複腕)——詳細(背中から四本腕を生やす。筋力+5 攻撃回数をプレイヤーの人数と同数まで上昇させる 発動時MP10消費 毎ターン 2減少) 分類(変身)

#### 技

——(ヤツアタリ)—— 成功率(正確性×3) ダメージ(筋力×1/2) 消費MP(0)

詳細 腕の一本で相手を殴りつける。

## 特殊技能

交渉(30)

魅了(20) +容姿

跳躍(50) +筋力

八木当の体力が27を下回った時イベント発生

魔法使い達との戦闘によりかなりのダメージを受けた当。彼はフラフラと立ち上がるとおもむろにイヤリングを耳から引きちぎり。それを自らの口腔へと押し込んだ。その直後魔法使い達は感じ取る。彼の中で大きな魔力が渦巻いていることを。彼の内から溢れる魔力はみるみるうちに彼の肉体を修復し、そしてより屈強な作りへと書き換えていく。気づけばそこには、先程までとは比べ物にならない程の鬼神がたたづんでいた。

八木 当

魔石強化後

性別男

年齢21

筋力 35

正確性 25

俊敏性 35

知識 21

思考力 23

容姿 18

幸運 6

感情値 70

総魔力量 85

HP 78

基礎魔法 熱()身体(120) 操作()

固有魔法適性 (光魔法)(変身魔法)

固有魔法 ——(複腕)——詳細(背中から四本の腕を生やす。筋力+5 攻撃回数をプレイヤーの数まで増加させる プレイヤーが四人の場合は四回行動 発動時MP10消費 毎ターン 2減少) 分類(変身)

技

——(ヤツアタリ)—— 成功率(正確性×3) ダメージ(筋力×1/2) 消費MP(0)

詳細 腕の一本で相手を殴りつける。

## 特殊技能

交渉(30)

魅了(20)+容姿  
跳躍(50)+筋力

勝利

八木当との戦闘中、八木当の魔力が一部魔法使い達の中に混入し、八木当の過去の記憶が断片的に流れ込んでくる。赤い瞳の少女。病院。雨。路地裏。女。ケダモノ。血。血。血。赤く汚れた自分の手。

それは、僅かな情報ではあったが魔法使いたちはそれらをもとに一つの事実へとたどり着いた。どうやら、八木当は街に蔓延る「犯罪者」を人知れず殺害して回ったようだ。

選択肢 八木当を殺す 八木当を見逃す。

八木当を殺す

魔法使い達は彼へ最後の一撃を見舞う その瞬間 視界の片隅に彼の顔が映る。彼は笑っていた。穏やかな顔で微笑みながら唇が動く。「ありがとう」とそう言っていた気がした。

——End 討伐成功——

八木当を見逃す(PC全員一致)/戦闘中逃走

あなた達は八木当を殺すことが出来なかった。その旨を手紙を通して魔力ギルドへと報告する。任務失敗は特にペナルティがある訳では無いが、それでも多少の罪悪感はある。結局あの後八木当は他の魔法使いによって討たれたのだろうか、あなた達がそれを知る術は無いが今度またあのカフェ行ってみようと心に決めるのであった。

.....Ebd 討伐失敗——

GM用 八木当 戦闘時セリフ例

「君たちが善人なら、あまり戦いたくない.....」

「ギルドの命令なら.....仕方ない.....ごめん」

「抵抗しないでくれるなら、たぶん死にはしない...けど暴れるなら...殺しちゃうかもしれない」

「戦うのが好きなんじゃない.....ただ、こうして自分を傷つけなきゃいけないんだ.....」

「その目で!!僕を見るな!!」(PCに赤い目のキャラがいた場合)

「君たちも、あの子を否定するのか!!だったら僕も容赦はしない!!」

「死ななきゃいけないんだ!!あいつらも!!僕も!!」

「あの子が生きることを許されなかったのに!!許されなかった.....のに.....」